

東アジア経営学会国際連合 日本支部産業部会会報

International Federation of East Asian Management Associations
The Newsletter of IFEAMA Japan Industry Section

第2号

2017年2月

特集：東アジア経営学会国際連合(IFEAMA)の設立経緯

黒川保美(専修大学経営学部教授)

東アジア経営学会国際連合(IFEAMA ※1 あ
るいは東連、以下東連と略称)は1993年10
月1-2日、専修大学神田校舎で第1回学術大
会が開催された時に正式に設立されました。
その背景には、特に1990年代に入って「アジ
アの時代」と言われるほどに世界の経済発展
におけるアジア地域への期待が高まったこ
とが挙げられますが、ある組織の創設にはか
ならず中心となって推進力となる人物が必要
です。それは昨年5月に逝去された故・野
口祐慶應義塾大学教授でした。

野口教授は1992年に第1回大会が東京で
開催された経営学会国際連合(IFSAM)の創
設においても中心的な役割を果たされました。
そして、大きな成功を収めたこの大会に
参加した国内・国外の参加者の間からアジ
アを中心とした学会を作ろうではないか、
作ってほしいという要望が野口教授に寄せ
られ、これに応える形で、国内組織として「ア
ジア経営学会」、国際組織として「東アジア経
営学会国際連合」が創設されました。発足時
点での参加国はロシア、中国、韓国、モンゴ
ル、日本の5か国でしたが、現在はベトナム、
ネパールが加わって7か国で構成されてい
ます。

以上のように東連設立に際しては野口教
授が中心的な役割を担われましたが、中国、
韓国、ロシア(ロシアが東連の構成国になっ
ているのはシベリアなどアジア地域を含む
からです)の研究者達との同志的連帯意識
がもたらす熱気がそこにあつたように思わ
れます。

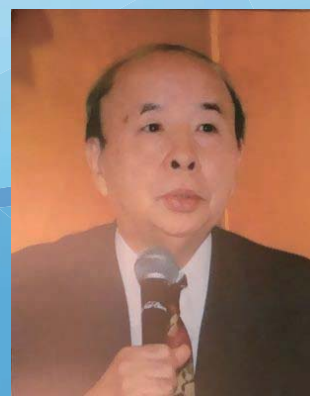
日本の近代化はそれまでの漢学から洋学
の受容に方向転換をして進められましたが、
21世紀を迎えて環境問題や格差問題を含む

様々な矛盾が深刻になる中で、アジアの現
実を踏まえ、アジアの価値観や伝統・文化
に根差した社会科学の構築が求められるよ
うになりました。換言すれば、東アジアを
単なる地理的空間と捉えるのではなく、新
しく創造する共生の地域社会として捉えよ
うとする考え方です。具体的には、東アジ
ア諸国における経営の研究と調査を多国間
で行うことはもとより、自前のシンクタン
クや研究所による研究や調査を行えない企
業に対し、「共通の研究機関」として東連
の研究・調査の成果をフィードバックする
ことで、アジア地域の発展に貢献しようと
するものです。

アジアの中にもさまざまな利害の葛藤が
あり、共生の地域社会の創造は容易な道で
はありませんが、東連設立にかかわった
人々の同志的熱気が、のちに続く人々にも
失われることなく、活動が継続することを
望んでいます。

(執筆に際し、東連の設立に深く関わられた一人である
長谷川秀男先生(高崎経済大学教授)の書かれた「東ア
ジア経営学会国際連合設立・運営における野口教授の
業績」『野口祐先生を偲んで』野口祐先生を偲ぶ会編、
2016年、65-70頁を参照させて頂きました)

野口祐先生(故人)近影



※1 IFEAMA : International Federation of East Asian
Management Associations (東アジア経営学会国際連合)

東アジア経営学会国際連合(IFEAMA)の会員諸氏へ

今年、2017年3月27-29日の期間、IFEAMAはネパール経営学会(NAM)との連携のもとネパールの美しい都市カトマンズにおいて国際学会を開催します。IFEAMAはすでに日本、中国、ロシア、ベトナム、韓国、モンゴルで国際学会を開催しましたが、2017年は南アジアのヒマラヤ地域の国であるネパールが開催国となります。

今回IFEAMAのパートナーとなるNAMは地域の実情に適合しつつグローバルに組織を運営するために必要な知識を創造し普及することを目的に設立された非営利の団体です。この目的を達成するために、NAMは国際学会、ワークショップ、博士課程コンソーシアムを度々組織しており、今回高い研究水準にあるIFEAMAと連携して合同の国際学会を開催できることを大変誇りに思う次第です。

大会テーマは「知識移転と転換—競争力と社会正義のためのグローバルビジネスと社会的ビジネス」です。この大会テーマは経営、経済、開発など社会科学のあらゆる論点に関する興味深い、そして実りある対話をもたらすと同時に、組織の競争力について持続可能な見解の形成に貢献する、と期待しています。先進国および途上国におけるダイナミックな変化に対応するために、持続的発展のための能力形成と企業統治を育てる企業文化を発展させ、革新を創造する経営システムの転換を提案することが時代のニーズとなっています。

このような革新的および統合的取り組みは技術、社会、文化、組織、それぞれの分野での努力を結合してシステムの転換を図ることを必要とします。今回のテーマは、既成のパラダイムや実践の再検討を促し、競争力と社会正義を高める知識変換のプロセスにおける様々なギャップに架橋することを意図しています。

この大会はカトマンズ市の中心に位置する5つ星ホテル(Hotel Yak and Yeti)を会場として開催されます。30を超える諸国からの研究者や専門家など約300人の参加者が集い、約100本の論文が報告される予定です。大会は2つのセッションでの5つの基調講演、12の分科会、3つの全体セッション、いくつかのイベント、から構成されます。参加者の思考を刺激するに違いない本大会の趣旨に賛同して頂き、できるだけ多くの方が参加し、この世界クラスのチャンスを活用して頂きたいと希望します。

(訳出：貫隆夫)



2017年1月29日

IFEAMA カトマンズ大会実行委員長
トリブバン大学経営学部教授
Dev Raj Adhikari

「農業の再生が、東アジアを救う」～ベトナムでのJICAプロジェクトを中心に～

元東京農業大学教授、元東京大学特任教授 内山 東平

ベトナム経済は7%前後の成長を続け、世界の注目を浴びている。しかし元々は農業国で、現在も人口の7割ほどが農民である。

ベトナムの農村では化学肥料と農薬の乱用で、農民自身が被害を受けて問題になっている(2009 農民協会調査)。耕作面積当たり農薬使用量は、ホン川デルタ地帯で許容量の2.81倍、メコンデルタ地帯では3.71倍に達する。ハノイ国家大学の調査(2009)では、日常的に農薬に接する農民の約70%が農薬中毒症で、死亡原因の4番目である。

養殖業も盛んで、特にエビの養殖は外貨を稼ぐ重要な輸出産業である。しかし数年前から抗生物質の大量投与等で、かえってウイルス感染症が蔓延して悪循環に陥っている。政府は抗生物質の使用制限を課しているが、思うような成果はみられない。

本報告は、2013年度のJICA助成金を受けて小職が事業設計の化学肥料・農薬・抗

生物質から脱却のための実証プロジェクトの中間報告である。

本プロジェクトは、日本から有用微生物(内城土壌菌)と発酵装置を持込み、養殖魚の加工残渣を原料に10時間程で、抗生物質の代替となる生菌製剤と、畜産用の生菌発酵飼料と、農業用の生菌発酵肥料を生成、それらを使用して養殖と畜産で脱抗生物質を実証し、畜産を改善して得る液肥と堆肥を併用して農業で脱化学肥料と脱農薬を実証するものである。(下図)

実証期間は2017年4月末で終わるが、成果を持続的に発展させるため、IoT(Internet of Things)とAI(Artificial Intelligence)でサポートする準備を進めている。また、現地大学とも連携し、人材育成に取り組む予定である。ODA(政府開発援助)に繋げることで、今後の我が国の途上国援助のモデルになればと思っている。

ベトナムで実証中の農・畜・水産連携のJICAプロジェクト

養殖魚の加工残渣活用による循環型モデルの構築



【第14回 IFEAMAカトマンズ大会 プログラム】

March 27, 2017	9.00- 10.00	Registration, networking and kits distribution
	10.00- 11.30	Formal Opening:
	12.00- 1.30	Key Note speech: Prof. J. Barney (University of Utah, USA), Prof. Will Mitchell (University of Toronto, Canada).
	1.30- 2.30	Lunch
	2.30 - 4.30	Technical Session- I, II, III, IV
	5.00- 6.30	Plenary - I: Prof. Geoffrey Wood (Dean- University of Essex, Business school, UK), Prof. Morgan Miles (University of Canterbury, New Zealand), Prof. Arivind Astha (Burgundy School of Business, France).
	6.30- 10.30	Welcome Dinner
March 28, 2017	10.00 - 12.00	Key Note Speech: Prof. Garry Bruton (TCU, Neeley School of Business, USA), Prof. Satish Sharma (Maharaja Group of College, India), Prof. Hiroshi Hoshino (Kyushu University, Japan).
	12.15-2.00	Technical session V, VI, VII, VIII
	2.00-3.00	Lunch
	3.00- 5.00	Technical session IX, X, XI, XII
	5.00- 6.00	Plenary - II: Prof. Karina Jensen (NEOMA Business School, France), Prof. Takabumi Hayashi , (Kokushikan University); Prof. Zhang Yang (Business School of Hohai University, China).
March 29, 2017	10.00- 11.30	Plenary - III: Prof. Syed Ahsan (Concordia University, Canada), Prof. John Walsh (Sinawatra University, Thailand), Prof. Matthias Tietz (IE Business School, Spain), Prof. Marc Goergen (Cardiff Business School UK).
	12.00- 1.30	Talk to the Theorist: Panelist: Prof. Jay Barney; Prof. Will Mitchell; Prof. Garry Bruton, Prof. Geoffrey Wood.
	1.30-2.30	Valedictory Session
	2.30- 4.00	Lunch

※上記プログラムは、休憩時間等を除いた簡易版です。プログラムの詳細はIFEAMA公式サイト (<http://ifeama.org>) よりご確認ください。

ネパール観光情報

- ・チトワン国立公園・・・動物の楽園と呼ばれています。1984年に世界自然遺産として認定されました。
- ・サガルマータ国立公園・・・動植物の宝庫ともいわれ、珍しい動物・植物に出会えます。

【今後の予定】

■2017年3月27日～3月29日
IFEAMAカトマンズ大会

■2017年5月19日
第3回 産業部会サロン

■2017年8月26日
産業部会年次総会/記念講演

*会報誌第3号は、4月頃の発行を予定しております。

【編集後記】

会報誌第2号の編集は、主に陳、岩本が担当致しました。今号では産業部会の設立経緯を黒川先生に、寄稿文をアディカリ先生に、第2回産業部会サロン(昨年12月開催)の要旨を内山先生にご協力いただき、無事発行することができました。また、貫先生にも大変ご尽力いただき、感謝申し上げます。3月に開催される国際大会(カトマンズ大会)についての情報も掲載しておりますので、是非ご覧ください。(岩本聡)

■発行責任者：望月邦彦(産業部会 部会長)

■発行日：2017年2月17日

■各種お問い合わせ先：株式会社ディセンター(事務局担当：石川)
(TEL) 048-783-2626 (E-mail) ifeama@decenter-jp.com